

平成 29 年度

藤里町の人口減少やまちづくりに関する

アンケート調査報告書

平成 30 年 3 月

藤 里 町

報告書作成：特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター

■ 目 次 ■

1.	調査の概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査の方法	1
(3)	調査期間	1
(4)	配布、回収票数	1
(5)	補正係数 1	2
2.	回答者の姿	3
(1)	年齢と性別	3
(2)	結婚の有無	4
(3)	世帯構成	5
3.	藤里町への愛着度について	6
(1)	住み続けたいか	6
(2)	藤里町に住んでほしいか	8
(3)	愛着度	9
4.	まちづくりの現状の評価について	10
(1)	普段のおでかけ環境の満足度	10
(2)	人口減少に伴う人手不足	15
(3)	人手不足解消のために外部からの担い手や移住者受け入れについて	17
5.	情報の発信について	22
(1)	情報の入手方法	22
(2)	「とじこじ」の認知度、普及度	24
6.	まちづくりや人口増加に関する取り組みに対するご意見やご感想	28
	巻末資料 ～調査票～	34

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

町では、平成 27 年度に「藤里町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少問題を解決し、藤里町の特徴を生かした活力あるまちづくりや、暮らしやすく、子育てしやすいまちづくりの実現に取り組んでいる。

計画の一層の推進を実現するために、取り組みの効果や評価を把握することを目的として平成 28 年度に続き、アンケート調査を実施した。

(2) 調査の方法

藤里町に在住する町民 500 人を無作為で抽出し、郵送配布、郵送回収により実施した。

(3) 調査期間

平成 30 年 3 月 2 日配布 ～ 3 月 19 日回収締切

(4) 配布、回収票数

回収票数 246 票（回収率 49%）

(5) その他

回答の構成比は小数第 1 位を四捨五入しているため、合計は必ずしも 100%にはならない。

(6) 補正係数 1

過去のアンケート調査と結果を比較するにあたっては、配布数と回収率の差を補正係数を乗じることによって補正した後に、比較することとする。

表 補正係数 I (平成 27 年度の総合戦略アンケート調査)

年齢	回答数			構成率			補正係数 (H27/H28)	補正係数 (H27/H29)
	H27	H28	H29	H27	H28	H29		
10代	26	6	11	4%	2%	5%	2.17	1.00
20代	34	21	17	6%	7%	7%	0.81	0.84
30代	50	30	19	9%	10%	8%	0.83	1.11
40代	89	44	36	15%	15%	15%	1.01	1.04
50代	111	43	49	19%	15%	20%	1.29	0.96
60代前半	51	21	23	9%	7%	9%	1.21	0.94
60代後半	53	39	16	9%	13%	7%	0.68	1.40
70代	93	50	44	16%	17%	18%	0.93	0.89
80代以上	71	35	29	12%	12%	12%	1.01	1.03
総計	578	289	244	100%	100%	100%	1.00	1.00

2. 回答者の姿

(1) 年齢と性別

年齢は、平成 28 年度調査と比べると 50 代の回答が増え、60 代後半の回答が減っている。

性別は同じような傾向で、女性がやや多く 51% を占める。

職業も同じような傾向となっており、無職が 32%、会社員が 20% と多く、合わせて全体の約半数を占める。

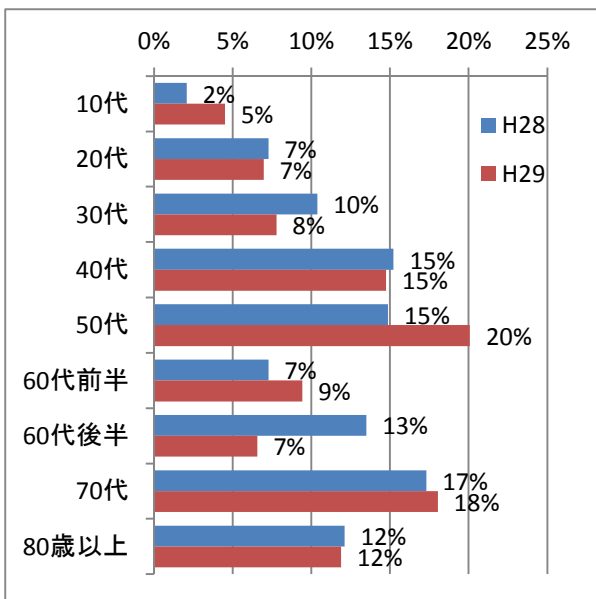


図 年齢

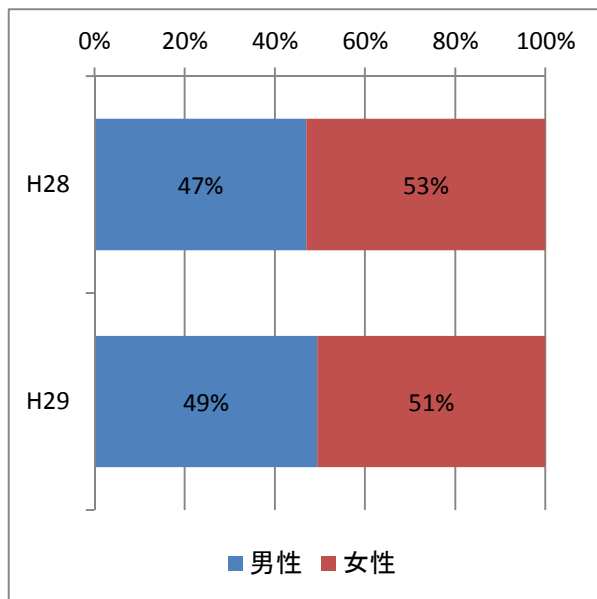


図 性別

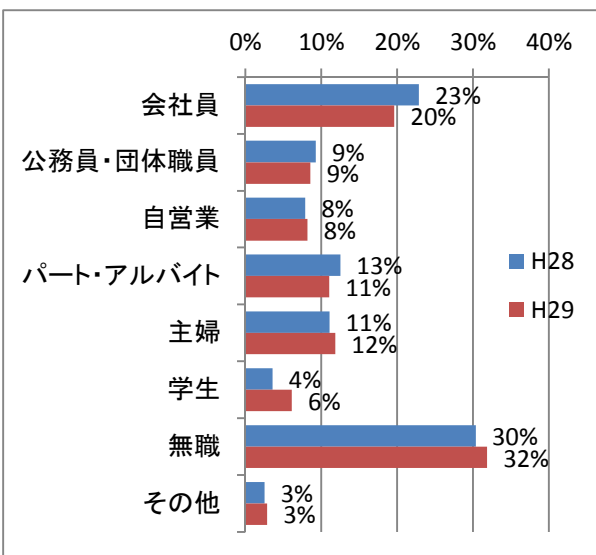


図 職業

(2) 結婚の有無

結婚をしている、もしくは結婚の経験がある割合は、平成28年度は81%だったのに対して、平成29年度調査では77%に下がっている。特に、20代の婚姻率が0%となっている。

男女別にみると、男性の方が結婚率は低い状況は変わらず、男性が71%に対して、女性は84%である。

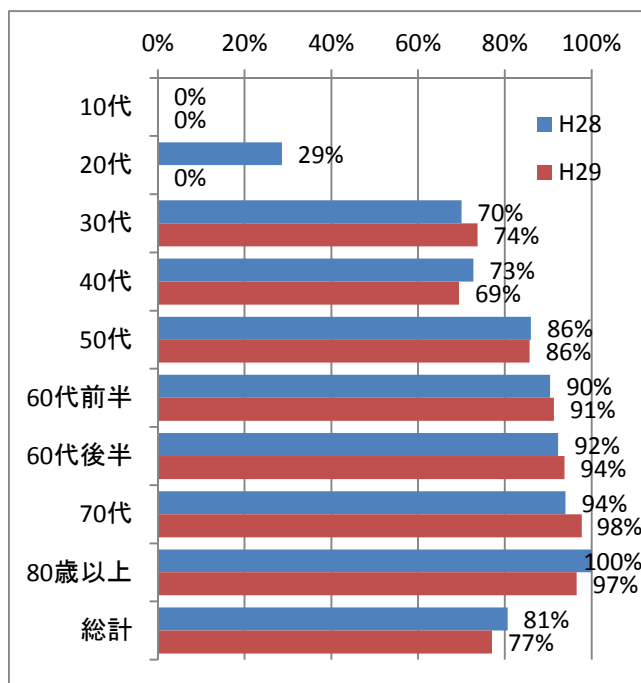


図 婚姻状況

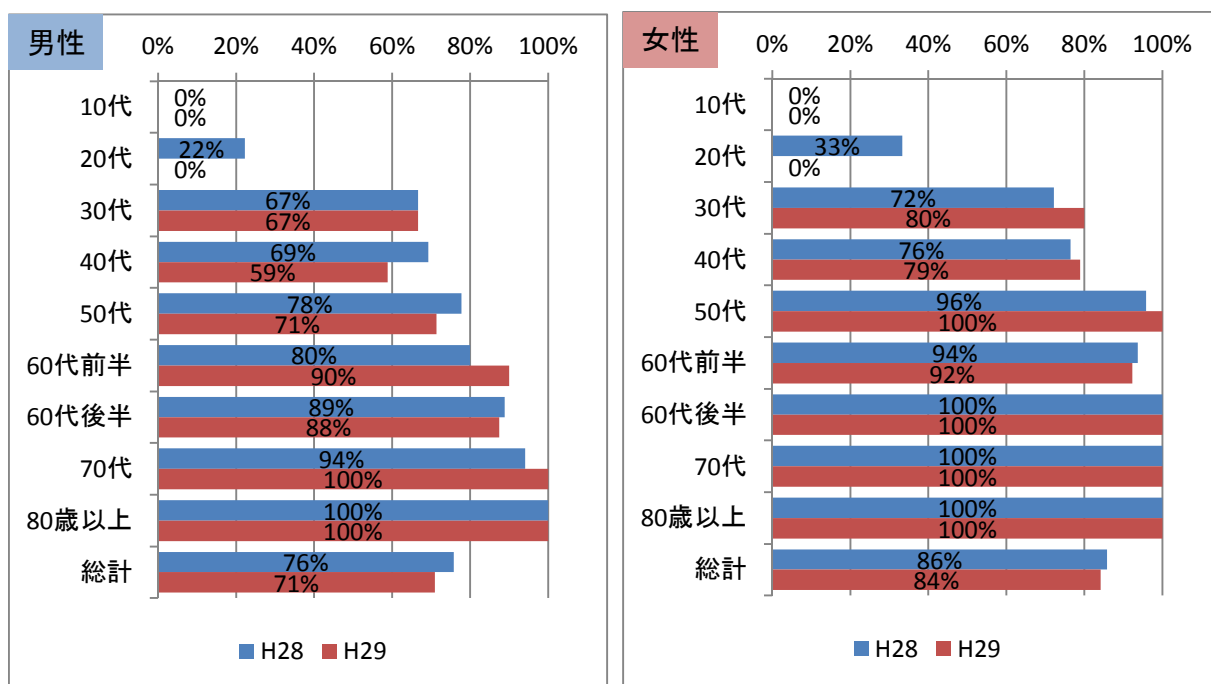
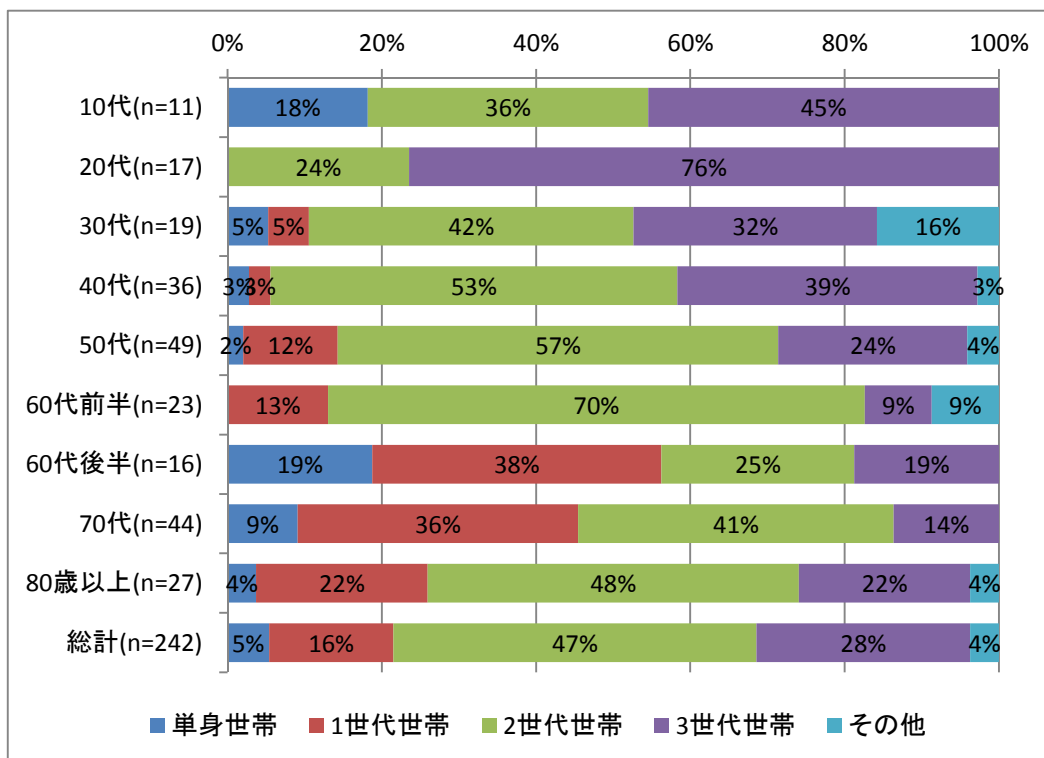


図 男女別の婚姻率

(3) 世帯構成

総計で見ると、2世代世帯が47%を占めて多い。単身世帯は60代後半が最も多く19%を占める。



注) 回答の構成比は小数第1位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはならない。

図 同居している世帯構成

3. 藤里町への愛着度について

(1) 住み続けたいか

「このまま町に住み続けたいと思う」割合は、平成 27 年度は 65%、平成 28 年度は 73%まで増えたが、平成 29 年度は 66%で、平成 27 年度に近い値となった。

平成 29 年度の調査では、「進学や就職などで町外に住んでもいずれは藤里町に戻りたいと思う」という割合が 10 代では 55%を占めて多くなったものの、20～50 代で「このままこの町に住み続けたいと思う」という割合が下がった。

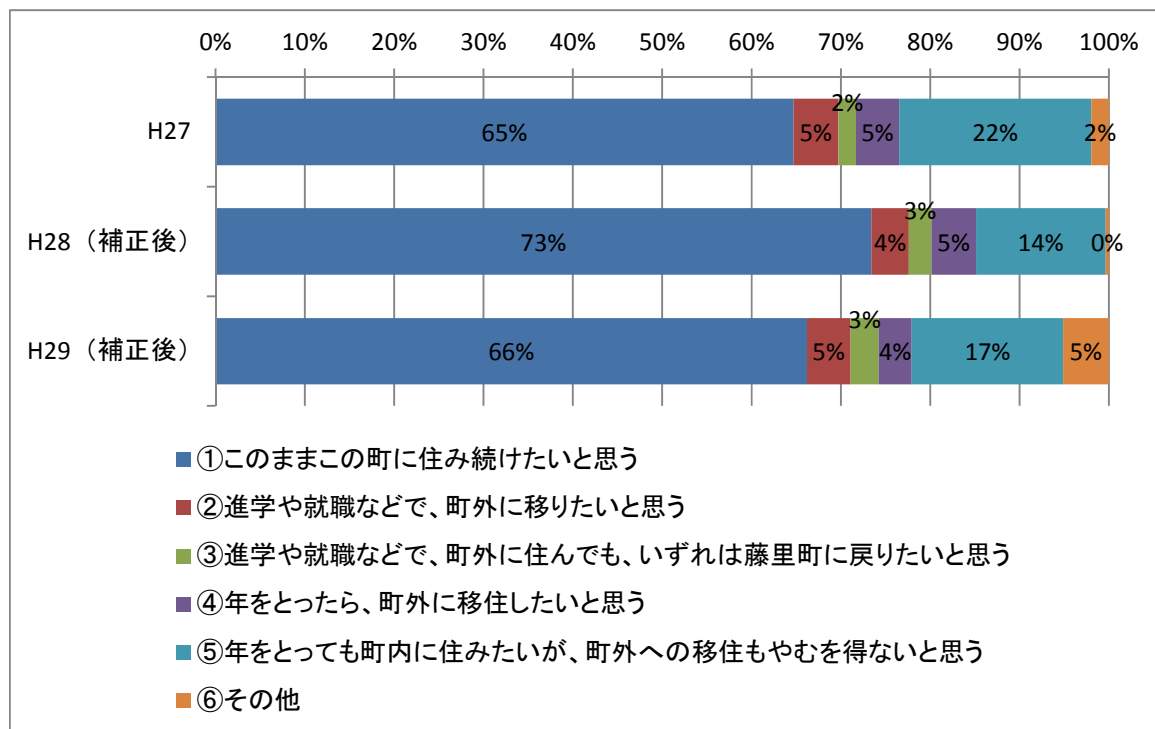


図 藤里町に住み続けたいか

*その他の内容

- ・ 就職や離婚などで町外への移住もやむを得ない。(20代)
- ・ 転勤がある。(30代)
- ・ 住み続ける予定だが周りの状況が変われば移住もあるかもしれない。(60代前半)
- ・ 家族が他県にいるので当地の老人ホームに入らなければ他県に行く事になる。(60代後半)
- ・ 70代なのでこの町に住みたいが今この町は住みにくい気がする。(70代)
- ・ 自分で行動できなくなったら一人暮らしは無理だと思います。(70代)
- ・ 住み続けるより選択肢がない。(70代)
- ・ 考え中。(50代) (60代後半)
- ・ 分からない。(10代) (30代)

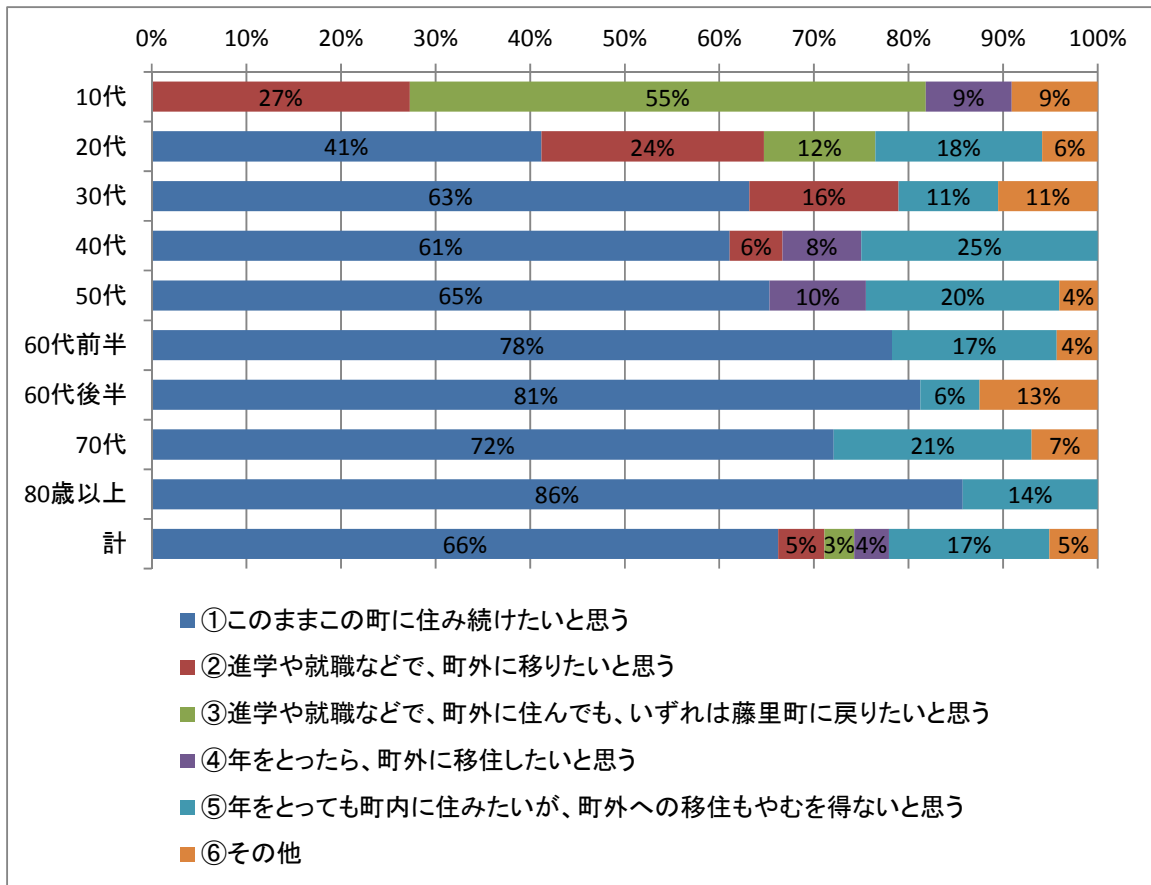


図 このまま住み続けたいか（平成 29 年）

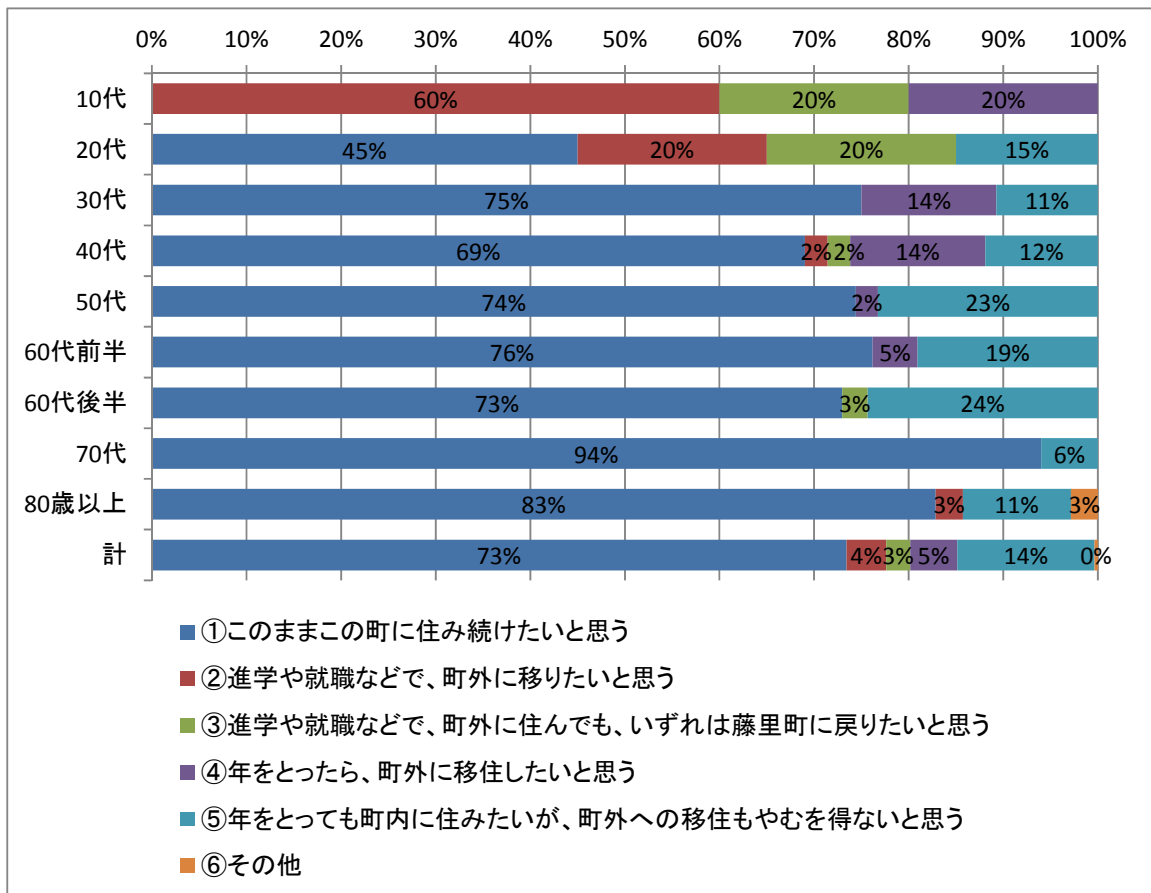


図 このまま住み続けたいか（平成 28 年）

(2) 藤里町に住んでほしいか

将来、あなたの子どもや知り合いなどに、藤里町に住んでほしいと思うかについては、平成 29 年度は「住んでもらいたいと思う」割合が減り、「どちらともいえない」割合が増えている。

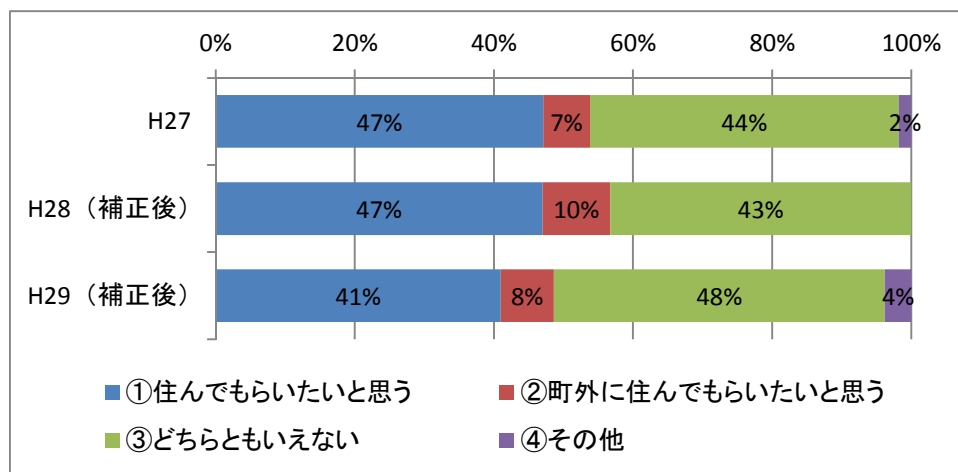


図 藤里町に住んでもらいたいか

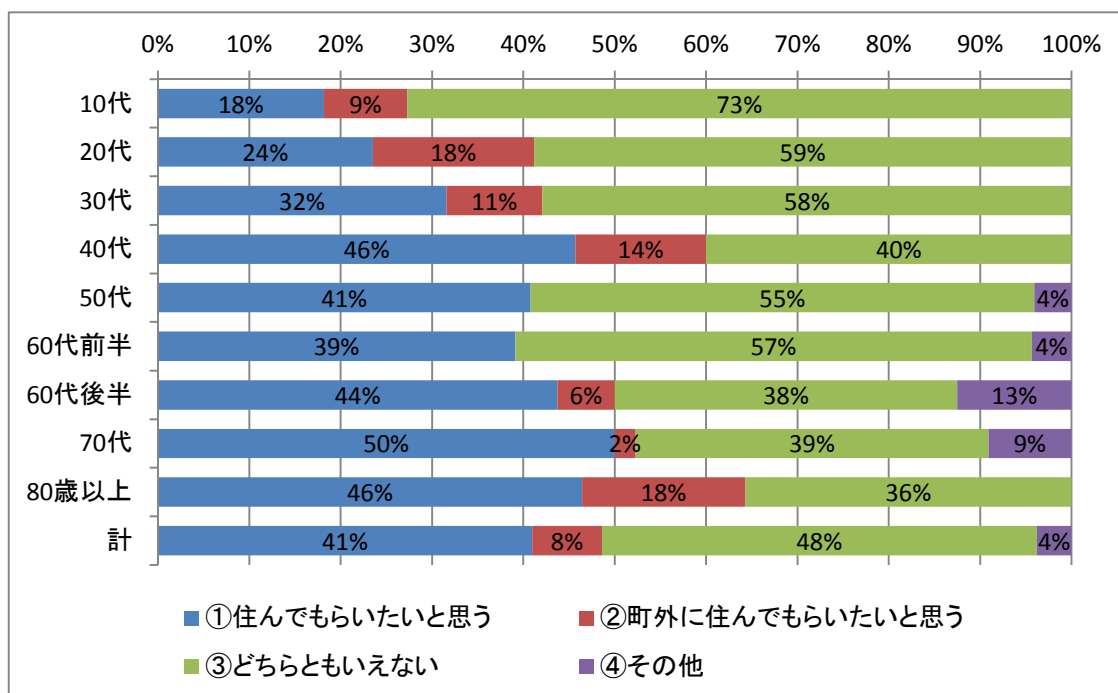


図 藤里町に住んでもらいたいか

*その他の内容

- ・ 子供はいないけど知り合いに住んで欲しいと思います。(60代後半)
- ・ 住んで欲しいが無理だと思う。(50代)
- ・ 仕事がなくしては生活できないので住めないと思います。(70代)
- ・ 子供たちに任せる。(50代)
- ・ その人の考えに任せる。(60代前半)
- ・ 当人次第。(70代)
- ・ 生活の基盤がないので無理。(60代後半)
- ・ 県外に息子が勤めているので今は何ともいえないです。(70代)

(3) 愛着度

藤里町に愛着を感じるかどうかについては、平成 27 年度には「強く感じる」が 41%だったのに対して、平成 28 年度は 29%まで減少している。平成 29 年度も平成 28 年度と同程度である。ただ、「まあまあ感じる」を加えると、いずれも 84%であり、平成 27 年度と同程度となる。

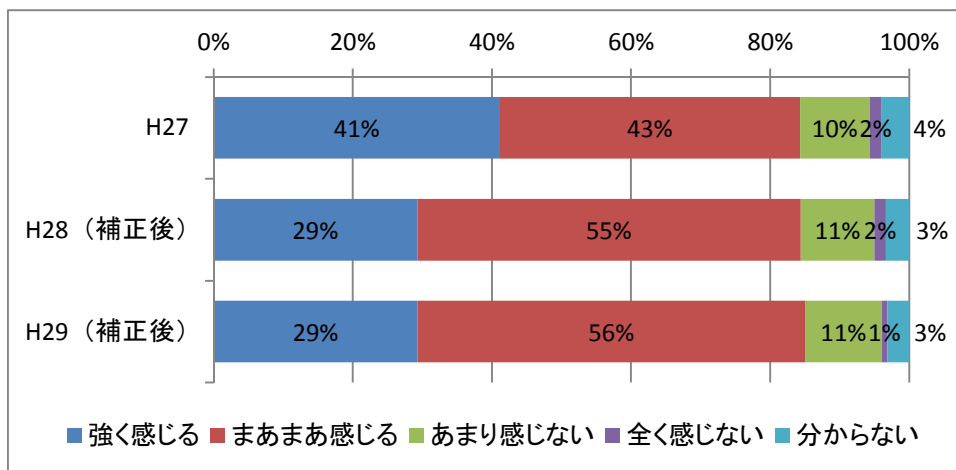


図 愛着度

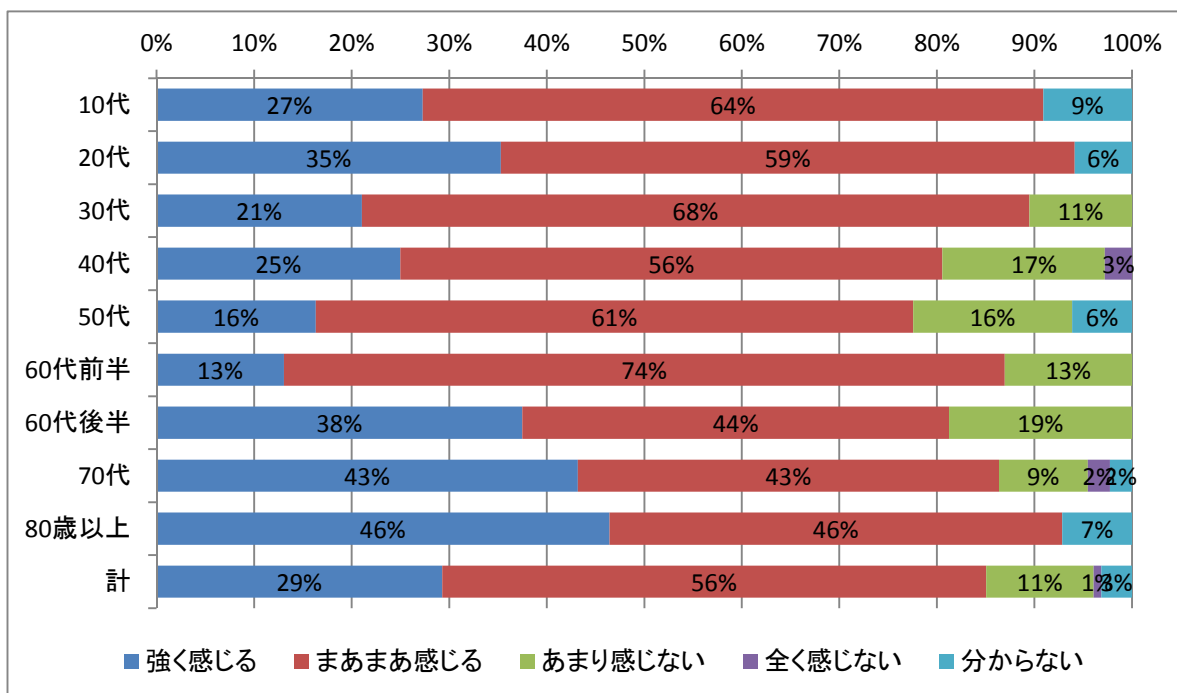


図 愛着度

4. まちづくりの現状の評価について

(1) 普段のおでかけ環境の満足度

普段のおでかけ環境に満足しているかについては、全体では「満足している」が26%から17%に減少し、「どちらともいえない」が15%に増えている。平成29年度は、「やや満足している」が35%から22%に減り、全体的に満足度が低下している。特に、10代の満足度が低下している。

「藤里町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた数値目標は、平成27年度現状値が60%であるが、平成31年度には80%を達成することを目指している。

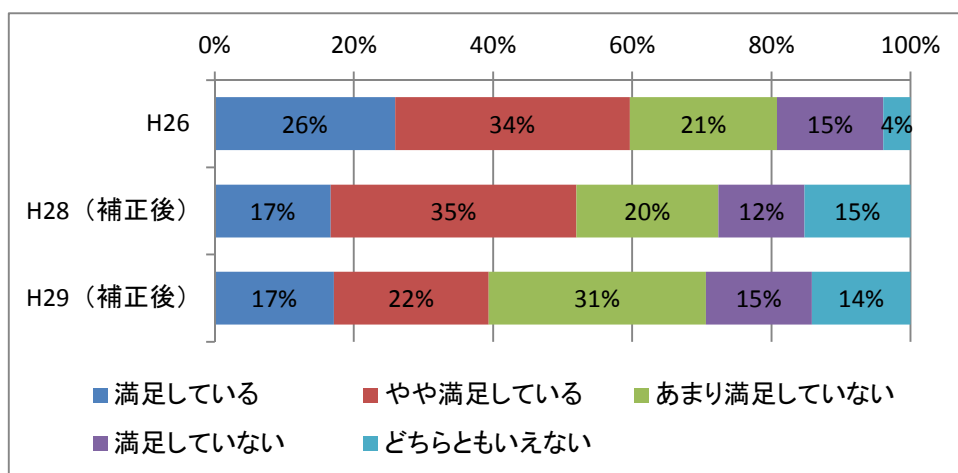


図 おでかけ環境の満足度

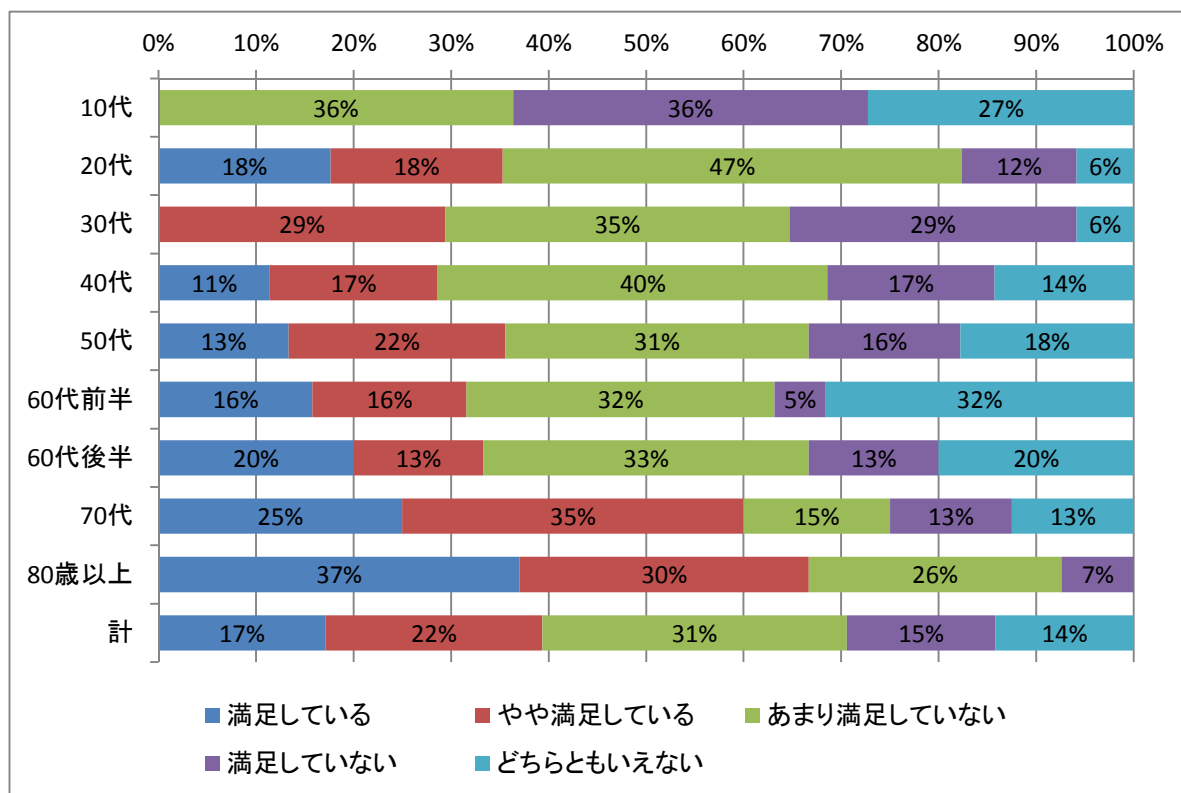


図 おでかけ環境の満足度

〔満足している理由〕

20代～30代	<p>車があるから。 大館市、秋田市に行く距離が同じくらいだから。 秋田市にも青森、岩手にも1～2時間で行けるので車があるうちは大丈夫。 藤里の除雪がありがたい。 道路も整備されてきているから。</p>
40～50代	<p>自家用車で自由に動けるから。 自分で運転して出かけることが出来るから。 自家用車で能代市や北秋田市に出かける。 自分で行きたいところに行けるから。 今は自家用で十分。 大きい町から少し離れているが車の運転が出来るからやや満足。 冬の除雪が優れている。 道路が整っている。 国道から離れている為。 通行止めにならない限りOK。 自然が豊かで環境が良い。 スーパー、銀行、JA、商店、生活に必要なもの、場所は揃っているから。 食品が地元で買えて、たまに町外に出かける。 今は運転できるが年を重ねるにつれてどうなるか不安。 環境が良い。 バスの本数は少ないが車で行けるとところに色々な場所がある。</p>
60代	<p>今は満足。 自分で車の運転が出来るので。 道路の整備冬の除雪等。 除雪が行き届いている町を自慢できます。 買い物と病院で町外に出るが特に冬が不便。 冬期は他県に行っている。 車に乗れるうちは良いが、免許返納したらわからない。</p>
70代以上	<p>車を運転出来るから。 車で移動できるから。 今は運転できるし、日常の買い物も町内で足りるので。 車で買い物に行っているので満足している。 交通の便が良い（除雪の徹底）。 食料品、雑貨、色々揃っているから。 道路状況が整備されている。 交通が不便。 長年の慣れ。 空港が近い。 田舎だから住みよいと思う。</p>

	<p>空気良い、水が良い、秋田こまち良い。</p> <p>現在は車の運転が出来て買い物、通院できているが、今後の健康と病院が近くにないことが心配。</p> <p>能代までの直通バスがありとても助かってます。</p> <p>いとくがあるから。時々郊外にも行ける。</p> <p>特に不便な事はない。</p> <p>バスの本数が多いと良い。</p> <p>長年住み慣れたから。</p>
--	--

〔満足していない理由〕

20代～30代	<p>車が無いと外出できない。</p> <p>交通が不便。</p> <p>公共交通は値段が高く本数は少ない。</p> <p>バスの本数が少ない。</p> <p>町外に出るにも町内を回るにも数少ないバスに頼るしかない為出かけた時出かけられない。</p> <p>地理的にどこに行くにも遠い。</p> <p>ちょっとしたものを買いに行くだけなのに車を使わなければいけない。</p> <p>スーパーしかない。</p> <p>店や憩いの場がない。</p> <p>道路が通れなくなる可能性が大きい。</p> <p>冬道に除雪の有無で迷うから。</p> <p>コンビニ遠い。</p>
40～50代	<p>バスの本数が少ない。</p> <p>バス停まで遠い。</p> <p>車が無いと生活できない。</p> <p>電車が無い。</p> <p>公共交通機関がない。飲んでも帰って来れない。</p> <p>病院が遠い、交通の便が悪い。</p> <p>どこに行くにも遠回りな気がするから。</p> <p>町外に出るまでの道路が狭く、カーブも多いので危ない。</p> <p>袋小路だから。</p> <p>高齢者になり、運転が難しくなった時が心配。</p> <p>通院、買い物の身近な手段が足りない。</p> <p>商店に元気がない。</p> <p>生活用品不足、食品の価格、大人から子供の遊び場、気軽に集える場などが不足していると思う。</p> <p>スーパーの品数が少ないこと。</p> <p>行きたくなるような所が無いと思います。</p>

	<p>飲食店などが少ない。 集落に子供を遊ばせる場所が無い。土日に営業している飲食店が少ない。 病院もない子供のものも買う場所もなく非常に不便さを感じている。それらの施設にたどり着くまでの距離も非常に大変。 町外でないと用事が済まなかつたりする。 車移動の移動時間短縮のための道路整備。</p>
60代	<p>車が無いと生活できない。 今は車ですが乗れなくなると大変です。 今はまだ自分で好きなところに行けるが将来は不安。 自家用車に乗せてもらわないと病院などに行けない。 車のあるなしで差がある。バスは充実のレベルではない。 愛着無し。買い物など不便を感じる。 外出しなければ物が揃わないので…。 ニツ井までの道路が不安。早く新しい道路が出来て欲しい。 幹線道路の不備。</p>
70代以上	<p>バスの運行が少なくなった。 バスと電車の時間が合わない。 バス停まで遠い。 車がないと何をするにも動きがままならない。 不便だから。 病院が遠い。 高齢になり車の運転が不自由なので外出は控えている。 運転できなくなった場合の交通手段。 足腰も弱くなり、玄関前から気軽に利用できるようなれば良い。 冬場の買い物にやや不便さを感じる。雪下ろし雪投げ。</p>

[その他]

10～30代	<p>自分では不便と感じないが町外の人には不便と言われるので基準がわからない。 今は自分で運転できるが年を取ったら分からない。 何も感じたことが無い。</p>
40～50代	<p>車があつて当たり前前生活をして居るため 質問の意味が解らない。 あまり出かけることがないので。 現在は車が運転できるが免許返納後は外出しにくくなると思う。 良く分かりません。 特に考えていない。</p>
60代	<p>自分で車を運転して居るから。 自家用があるのでは不便を感じていない。 自家用車で動けて居るので不便に感じていないが車がなければ不安になる。 今は車を利用できるがいずれ不自由になるだろうと思う。 買い物で欲しい品物の数が無い。</p>
70代以上	<p>運転できなくなつたらどうしようと思う。 乗り物が不便。 流雪溝の利用を考えるべき。</p>

(2) 人口減少に伴う人手不足

普段の生活の中で、人手不足を感じるかどうかについては、「強く感じる」は、平成 28 年度は 13%だったのに対して、平成 29 年度は 10%まで減り、「あまり感じない」・「全く感じない」が増え、全体では人手不足を感じない傾向が強まっている。

どの分野で感じるかについては、「集落の行事を担ってくれる人」が特に多い。また、「高齢者の見守りや日常生活を支援する人」や「何か困ったときに声をかけたら手伝ってくれる人」「草刈りなどの地域の共同作業」も 3 割を超えて比較的多い。

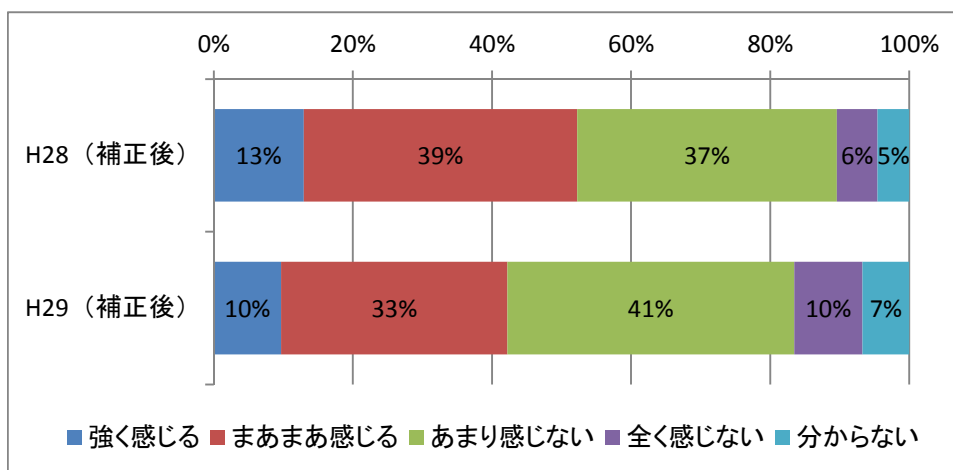


図 人手不足を感じるか

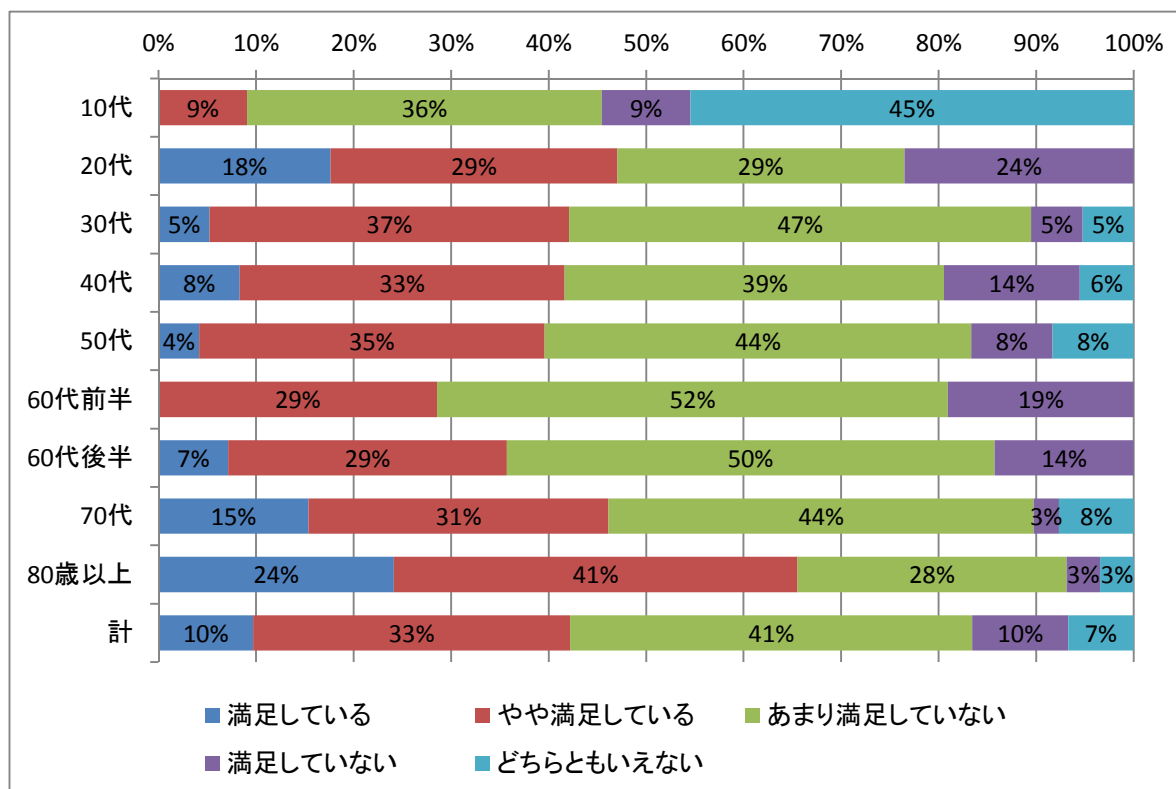


図 人手不足を感じるか

[人手不足を感じる分野]

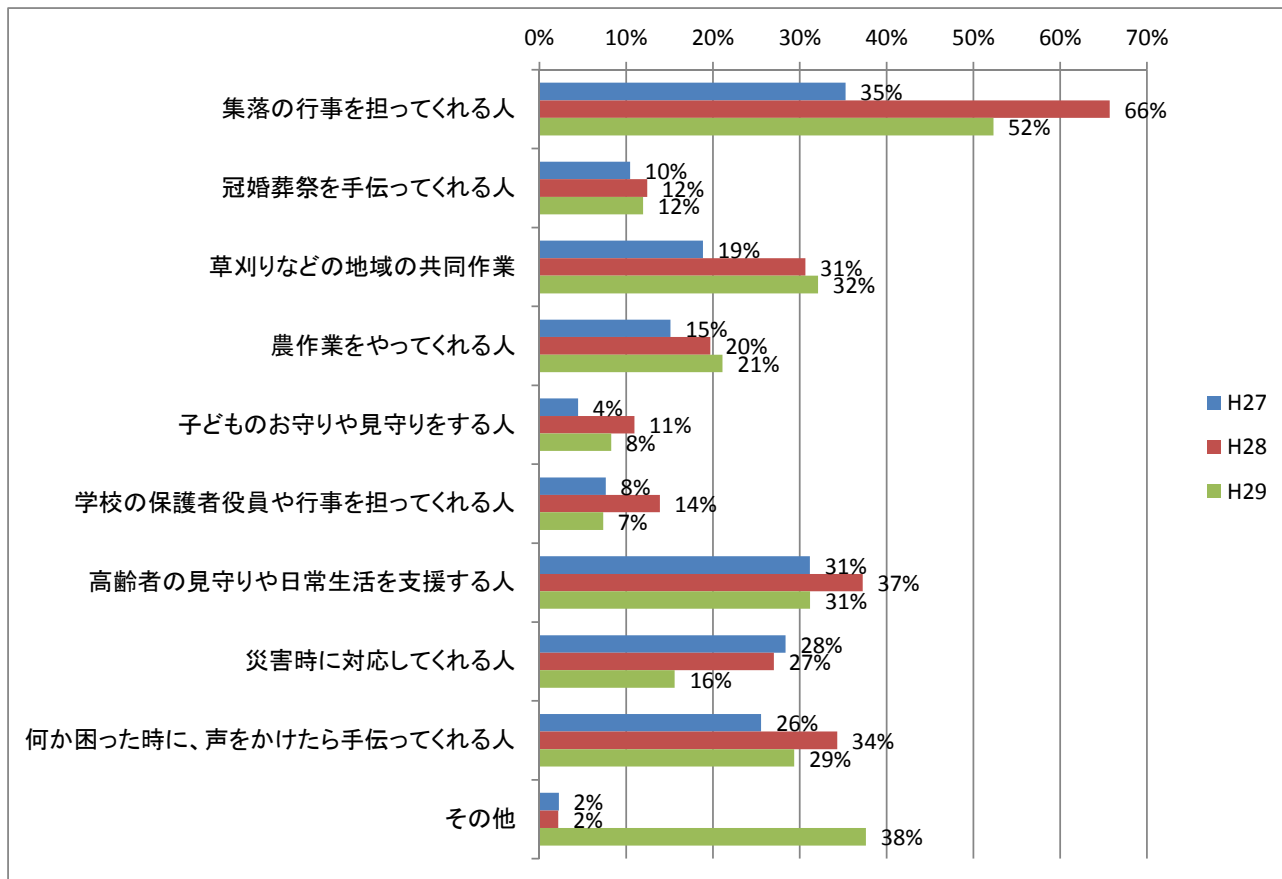


図 人手不足を感じる分野

(その他)

- ・ 何か困った時に声をかけて手伝ってくれる人。
- ・ 農工業に若者が少ない。
- ・ 地域の役員のなり手がいない。
- ・ 高齢者の活動だけでは町は活性化しない。
- ・ バレーチームの数が減った。
- ・ 社協の人達にお願いしたいです。地区内の人だと色々言われて嫌だから。

(3) 人手不足解消のために外部からの担い手や移住者受け入れについて

人手が不足している分野に、外部からの担い手を受け入れることや、移住者の受け入れについてどう思うかについては、平成 28 年度と 29 年度に大きな違いは見られず、「積極的に受け入れたほうがいい」が 44%～45%を占めた。「積極的ではないが、やむを得ない」は平成 28 年度は 52%だったがやや減り、46%となった。

若い年齢層ほど「積極的に受け入れたほうがいい」という割合が高い傾向がみられる。

また、受け入れるために必要なこととしては、仕事や住居のほか、移住側には覚悟、受け入れ側には受け入れる気持ちなどを挙げる声もあった。

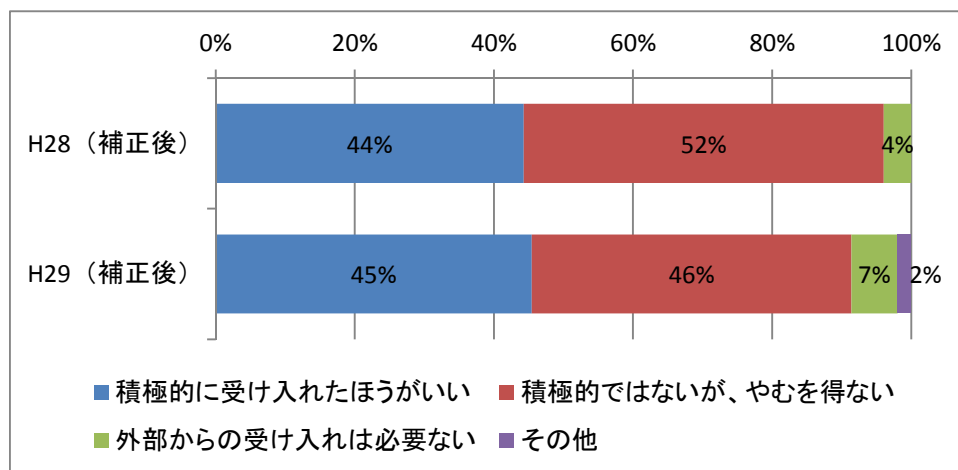


図 外部者の受け入れについて

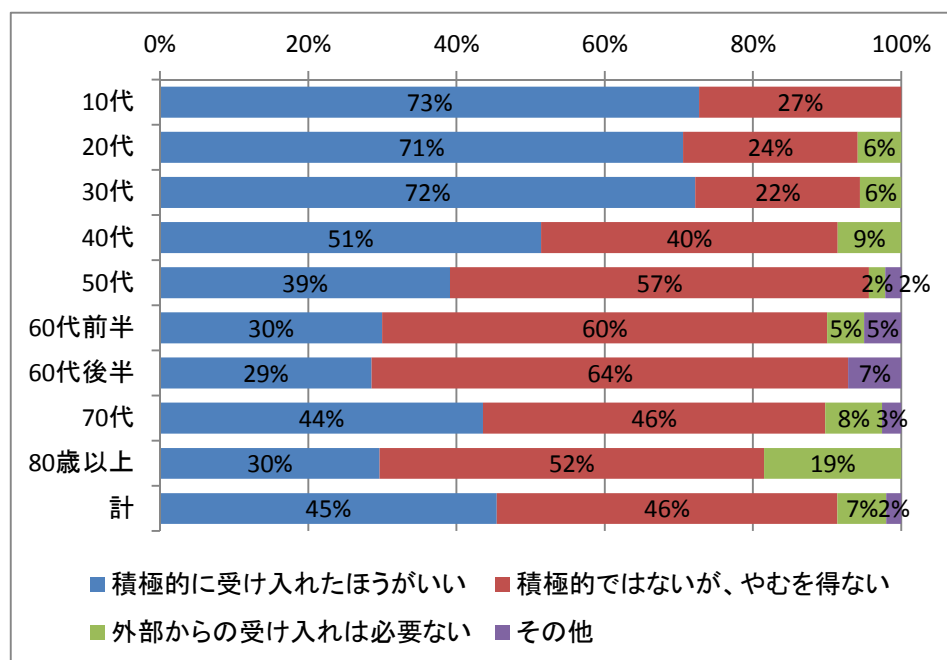


図 外部者の受け入れについて

(その他の内容)

- ・ 分野毎に専任者がおれば良いのでは？
- ・ 先を見通す検討が必要では？外部からの担い手という発想は安易すぎる。どの時点まで請負人を探し続けるのか？費用はどうするのか？
- ・ 外部からの応援者、移住者が生活しやすい環境づくりが大切。
- ・ 例えば農業の担い手などにちゃんと教えることが出来る農家がいるのか？
- ・ 受け入れを希望。

[また、外部人材や移住者などを受け入れる際に必要なこと]

20代～30代	<ul style="list-style-type: none">・ 仕事。・ 住みやすい住居が必要。・ 仕事が十分にあって生計を立てられること。・ 仕事を提供すること。・ 環境の整備。住宅や公共施設、店の改善。・ 仕事、家、車、お金、地域の優しさ。他の市町村より突出した補助。・ 暮らしやすい環境。・ 交通手段の充実。・ 医療機関。・ 移住者が地域に根差して生活し、一生藤里に住んでもらえるような取り組み。職場の確保や住居。・ 県平均レベルの年収が得られる雇用先。町や田舎特有の处世術を教えてくれる存在（移住者ネットワーク）。・ 高水準の賃金と充実した社会サービス。特に子育てしやすく、子育ての個人負担の低減を行うべき。・ 家など生活する場所も必要ですが、車の移動が不可欠だと思うので移動方法を考えることも大切。・ 柔軟な心。・ 温かい心（閉鎖的すぎる）。町外の友人が藤里を車で走るとよそ者を見る目が厳しいと言っていた。・ 町外から来る人に対しての目が冷たいと思います。（一部の人だと思いますが…）移住者への支援も大切だと思うが、町民全体が心から移住者の方を受け入れる気持ちを持つことが大切。・ その方々に愛情と思いやりを持って接すれば良いと思います。・ 良い面の他に悪い面も伝える。→車が無いと不便、冬は雪かきが大変など。・ 藤里の事を知っている人で、現状について勉強している人か見極めて欲しい。・ 永住するという心構え。・ 必要以上にお金と労力を使わないこと。そうすることで外から来た人に金銭的、物質的に支援できるかもしれない（例えば山形の米みそ1年分支給など）。労力を減らすことにより、町内の業務に時間を割くことが出来一部の人が負担を負わなくても良くなると思う。
---------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人物を見ること。変な人には来てほしくない。 ・ 商業面での発達。大人だけでなく子供も楽しめるような森林を活かした遊び場。 ・ 町の PR（特産品、伝統芸能等）。 ・ 若者。
40～50 代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬でも暖かい家に住めること。 ・ 住居の整備。 ・ 働く場所。 ・ 仕事と住みやすい住宅。 ・ 仕事、若い人の働く場。 ・ 住環境、地域とのつながり、コミュニケーション。 ・ 生活環境が整っている（住む家があって、職場があって、買い物できる場所がある）。 ・ 若い人の働ける職場、企業が必要。 ・ 低賃金だと労働意欲もわかないと思うので、そこは大事と思う。 ・ その人達が仕事して暮らしていけるようなベースをつくる事。 ・ 町に短期間の移住者は受け入れる必要はない。ずっと住み続けられる仕事が必要。 ・ 経済面では移住者受け入れに積極的な他市町村に負けるので、移住者のスキル経験を尊重した受け入れ体制が重要。 ・ 温かい気持ちで受け入れることかな…。 ・ 思いやり。 ・ 周りのフォロー。 ・ 季節の変化により、「こうではなかった…」と思うだろうから、本人の強い意志と周りのいたわりだと思う。 ・ 良いことばかりでなく現実や良くないことも言うべきだ。 ・ 情報提供、コミュニケーション。 ・ 情報の共有と連携。 ・ 方言意味。 ・ デメリットの対策を立てる。 ・ 町外や県外の人が住んでみたいと思う案内と情報を積極的に取り入れていく必要があると思う。 ・ 町の人との付き合い方。 ・ 適度な距離感。 ・ 移住者の為に何かするのではなく、移住される方が藤里を理解してから住んでもらえると良いと思う。お金を掛けるだけが土地の良さをアピールできるものではない。 ・ 自然が好きで誰とでも接することが出来る明るい人。 ・ 移住者自身に自力で生活できる知恵又は技術を持っていないとやっていけない。 ・ 移住者の受け入れには正直そんなにもてなさなくても…と思いますが。藤里で暮らすためには仕事がどうしてもネックです。予防接種受けるのも大変です。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉遣いと態度が重要になります。 ・ 本当に田舎暮らしが好きな人、人に頼らず積極的な人。町はこのままで良いと思う。どうにもならないから。 ・ 移住者が何を求めているか？田舎には住んでみないと。 ・ しっかりした人で、人を大切にし、建物も大事にしてくれる人を探すべき。 ・ 受け入れても良いですが、移住者の情報も町から町民へ必ず提供して欲しい。 ・ 地域に愛着を持ってくれること。長く居住してもらおう。若い方。 ・ 藤里に興味があったり何か得意なもののある方。 ・ 誰がどこで活動しているのか？また、どんな職種に対応してくれるのかまず分かるようにすること。 ・ 話す機会がなく知らない。明るく、声かけやすい人。 ・ 藤里で仕事あるか。
60代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅、仕事、アフターケア。 ・ 安定的に仕事があり、安心して生活できること。 ・ 住む場所の確保と見合った収入を得られること。教育環境の整備。 ・ 外部からの応援者、移住者が生活しやすい環境づくりが大切。 ・ 生活が安定して暮らせる仕事先の確保を保障しないと短期間で去って行くのではないか。 ・ 細やかな日常ケア（住まい、人付き合いすべて）することに人材がいること。その人の性格。仕事に対して意欲があるか？ ・ 必要なスキルの習得又は教え育てる環境づくり。相互の信頼関係を築き目的を明確にし、やりがいにつなげる。外部移住者を差別しないで受け入れる（今は外国人も雇用する時代）。 ・ 情報提供や受け入れ体制（行われていると思いますが…）。 ・ あ的那个人は知らない人だからという感覚ではなく近所に引っ越してきた仲間である一緒に協力して暮らしていこうという空気が必要だと思う。 ・ コミュニケーションの場を作り話しやすくする。 ・ 仕事、近所づきあい、声かけ幅広くサポートが必要だと思う。 ・ 他人の目を気にせず今必要としている現状をしっかりと認識すること。 ・ 補助・援助を厚くすることで人を迎えるのには反対です。援助が無くなれば去り、町民につけが回りかねないから。無自覚に受け入れることには危険もある。ある意図を持って入って来る個人や団体もある。町の住民の安全対策をしっかり行う必要がある。町の活性化が大切。子供を含め町に人々がいて動いていることが大切だと思う。 ・ 働く場所が無いので受け入れても難しいと思う。 ・ ずっとこの町に住んでもらいたい。 ・ 地域住民との付き合いが出来る事。 ・ 町が好きで来るのか？各種の補助目的で来るのかわからない。 ・ 素行の悪いものは受け入れない。 ・ 町おこしの手伝い。

70代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町で住宅の確保。 ・ 空き家の開放。 ・ 空き家利用して欲しい。 ・ 住宅、または移動手段。 ・ 町内にアパートがほしい。 ・ 住居と待遇と温かい心での接し方。 ・ 働く場所の確保。 ・ 割のいい仕事が必要。 ・ 出来たら3年以上住んでもらいたい。 ・ 若い人の働く場所。 ・ 安心して暮らせる仕事が必要。 ・ 住みやすさ…。 ・ 働く場所の確保と空き家住宅を無料貸付。移住者が定住するには課題が多い。職場がない、雪が多い、暖房費がかかる、子供の学費がかさむ、病院もない。 ・ 生活が成り立つ所得が得られること。対人関係で他人の行動まで監視されるように感じる風土から程よい干渉の風土へ。 ・ 地域のコミュニティ関係が築けるように受け入れる町内も仲間意識を持って対応する。 ・ 藤里町の実状を知ってもらおう研修の実施。 ・ 受け入れる側には寛容さが必要と思います。 ・ 交流が必要。 ・ 本当に町のことを考えてくれるのか確かめてもらいたい。 ・ 藤里町になじめるか(人間性)採用にあたってはきめ細かく面接する必要がある。 ・ 性格を確かめてから受け入れたほうが良い。 ・ 来てくれる人の覚悟や人柄を十分に調査して欲しい。 ・ 身分のしっかりした人。 ・ 第一に人柄、考え方場合によっては調査が必要と思う。 ・ 移住者が当町に魅力を感じ、活力あるまちになって欲しい。住宅やお墓を提供する。 ・ 難しいところは分からないが人口が増えれば町に活気が付くと思います。 ・ 人材が集まりにくいのでは？ ・ 白神山地観光事業を具体的にどうするべきか議論すべき(欠点ばかり目につく)
-------	--

5. 情報の発信について

(1) 情報の入手方法

普段、町のお知らせ・情報はどこから入手しているかについては、「町の広報」と「回覧板」が7割を超えて多い。次いで「防災無線」も5割を超える。

年齢別にみると、10代は「防災無線」20代は「フェイスブック」の割合が比較的高い。

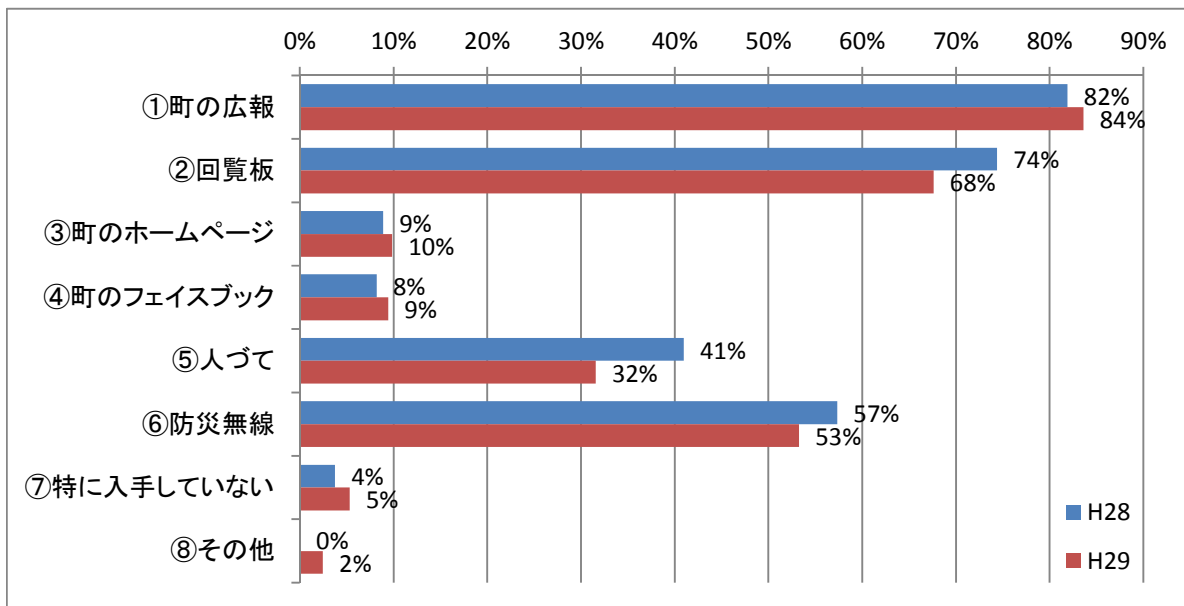


図 情報の入手方法

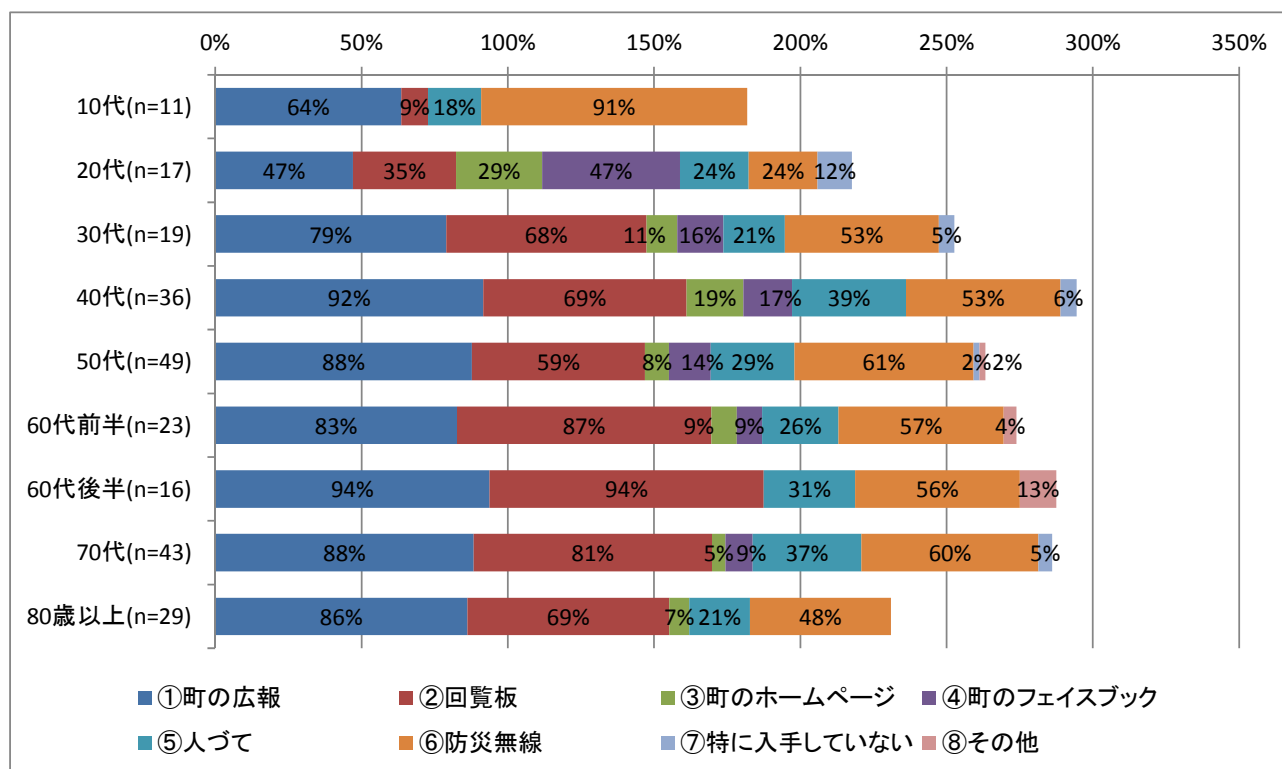


図 情報の入手方法

(その他)

- ・ 新聞
- ・ 近所の人達との集まり。
- ・ 施設入所のため妻から聞いている。
- ・ 町行事カレンダー

(2) 「とじこじ」の認知度、普及度

地域おこし協力隊員が毎月発行している「とじこじ」と1年に1回発行の雑誌「とんじこんじ」を知っているかについては、平成29年度は平成28年度より認知度が高まり91%が「知っているし、読んだことがある」と回答している。

特に、10代の認知度が高まった。

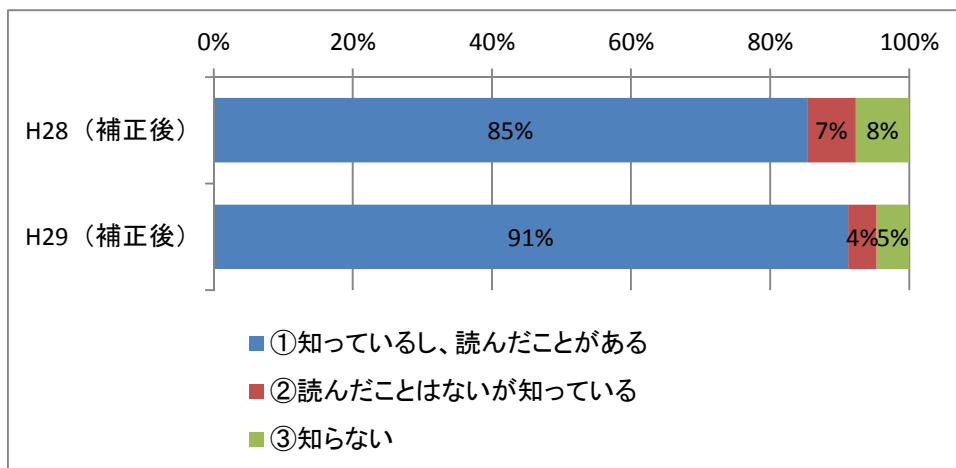


図 「とじこじ」「とんじこんじ」の認知度と普及度

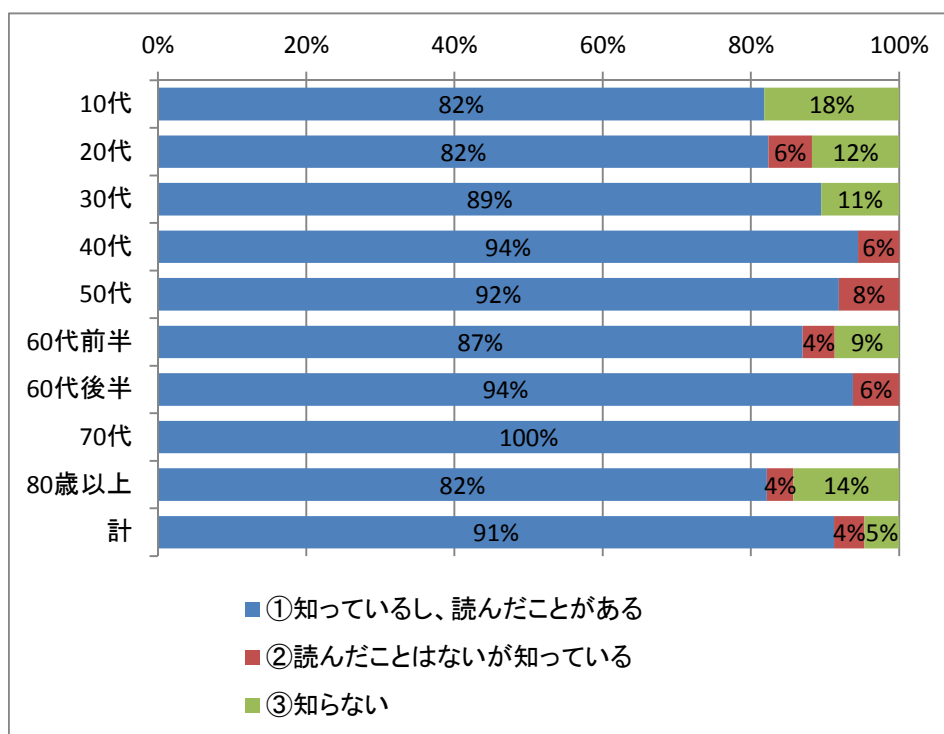


図 「とじこじ」「とんじこんじ」の認知度と普及度

(その他の意見)

- ・ 一目で地域おこし協力隊と分かるユニフォーム (ジャンパー等) 着用しては？

[とじこじ、とんじこんじへの意見や感想]

<p>20代～30代</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町の事を知れてよいと思う。続けて欲しい。 ・ 藤里の事情が良く知れて良いと思う。 ・ あまり話したことない町民の人を見つけ、こんなに面白い人だったのか！といつも驚かされています。これからも楽しみにしています。 ・ 遠方の家族に送って喜ばれている。 ・ 広報とは違い、よりローカルで一人一人に注目したものが多いので面白い。知らない藤里を知ることが出来る。 ・ 良く出来ていると思うので町外に向けても発信していくと良い。 ・ 積み重ねて平面で見えなかったものが見えてきていると思う。続けることが大切。幅広い人の関りがさらに増えると良い。 ・ マニアックなところまで書かれていて面白い。 ・ No.3 はとてもいい記事だったと思いました。 ・ これからも継続して欲しい。 ・ 取材頑張っていると思う。 ・ いつも楽しく見えています。 ・ もっと楽しく作って欲しいです。 ・ これからも頑張ってください。 ・ 楽しく見えていますありがとうございます。 ・ 字が小さくお年寄りには読みにくいと思う。どちらかというとも内容が若者向けに偏っている気がします。 ・ 発行部数が少し多いかも知れません。 ・ 写真の許可を取らずに使われています。問題ないとはいえ一言連絡があっても良いのではないかと！ ・ 注目されない方を取り上げたらいいと思う。
<p>40～50代</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回楽しみにしている。藤里の事をもっと知りたくなる。 ・ 町に愛着が持てる。 ・ 町の有名人、地域などの紹介で大変勉強になる。 ・ この町で知らなかったことが知れたり、知り合いにこんな趣味があったのか知れたり。これからも楽しみです。 ・ 町の人が掲載されているといつも思うことは、写真の表情がとても良い！その人の経験、今を知る事で「私も頑張らないと」と思わせてくれる。その人の見方も変わります。 ・ 手が込んでいてとても面白いです。藤里町には無い視点で書かれている。 ・ とても楽しく読んでいます。良い企画だと思う。 ・ 丁寧な取材にいつも感心して読んでいます。 ・ 知らないこともまだまだあり毎回楽しく読んでいます。 ・ 知っている人が載っていて、毎月楽しみです。 ・ 工夫されていると思う。 ・ このまま続けて下さい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ いいものなので続けて欲しい。 ・ 町の人々の頑張りが分かる。これからも期待しています。 ・ 毎回楽しく読んでいます。普段何気なく過ごしていることも見方を変えるとすごく大切なものと感じます。 ・ いつも楽しく読んでいます。知らない情報もあり毎回ワクワクする。 ・ 楽しく見えています。リサイクルコーナーなども作っても良いと思います。 ・ 面白いと思う。 ・ 読んで楽しいので北海道の息子に送りたいのでどんどん出して欲しい。 ・ 毎回楽しみ継続して欲しい。 ・ 雑誌自体は良いと思います。欲を言えば地域のイベント、各団体の紹介とかもあれば良いかな？若者向けにもう少し何か…。 ・ かもや堂に出入りしている子供たちだけが載っている。何となく知っていることが赤裸々に載せているような気がする。詳し過ぎ。楽しみでもあるから続けて欲しいがお金がかかっているだろうなあと思います。 ・ 県外で頑張っている会社員、大学生の紹介があっても良いと思う。 ・ 町内のいろいろな人が登場したり各地の話題が掲載されていて興味を持って読んでいます。引き続き取材に力を入れて頑張って下さい。 ・ いつも楽しみに読ませてもらっている。それぞれの昔苦労した話や経験したこと、町の事を興味深く読んでます。 ・ 毎月発行しているようですが人の名前を間違えていたり、正しくない記事が載っていたりして怒っている町民もいるようです。確実な情報で発行できるなら続けて良いと思います。 ・ 取材されている人に偏りがある。いつも同じ方面の人が取材されているような… ・ 雑誌として作られているので素の藤里ではない。 ・ 若い人が会社を選ぶのではなく職種を選んで欲しい。そして、人力で生活できる知識や技術を身に付けて藤里で生活して欲しい。 ・ 仲間内でやりくりしている感じで、頑張っているなあとは思いますが…。 ・ 特に必要性を感じない。 ・ 今度読んでみます。
60代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元新聞が無くなった現在においては貴重な情報誌として利用している。 ・ 藤里町の昔の様子がわかりやすく取り上げられていて懐かしくいつも読んでいます。 ・ 藤里の人・モノ・コトを引き続き沢山発信してください。期待して楽しみにしています。 ・ みなさんすごい人生経験を歩んでこられた方なのだと感心させられ自身の未熟さを省みて頑張る力を頂いています。 ・ 頑張って取り組んでいると思う。 ・ 毎月楽しみにしています。 ・ 協力隊も藤里町の事を勉強しているなど痛感します。 ・ 色んな人を覚えるいいチャンスだと思います。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内でも知らない人が沢山いてそれぞれ色々な趣味をもっていて、素晴らしいなと思いつつ読んでいます。 ・ 外から見ればこんな所が新鮮なんだと気づかされるのがあって楽しい雑誌です。 ・ 良く作られている。毎月とても楽しみ。 ・ 先行して取り組んでください。 ・ 町内の個人の生き方を取り上げて連鎖していると思うが良い企画だと思う。 ・ 町外に住んでいる友人、知人に送りたい。親しくしている人達を新たにみられて嬉しい。 ・ 写真が多くて見やすい高齢者の元気なところ生き方に注目されて「なるほど」と感心しながら見えています。 ・ 最近のとんじこんじはあまり面白くない。 ・ 年配者の記事が多い子供達をもっと取り上げて欲しい。 ・ 書かれている内容ではなく表題の「とんじこんじ」に親しめない。
70代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町のまだ知らない所がたくさんあると思うので、取材して紹介すると町の話に素晴らしい人が町に住んでいる事を知らせてもらい嬉しい。まだまだ知らないことがあり、町の再発見になっている。 ・ 立派な生き方をされている個人をすることが出来て自分も刺激を受けている。 ・ いつも楽しみにしています。 ・ 知っている人が載っているのを楽しんで読ませてもらっている。元気をもらっている。 ・ 素晴らしい取り組みだと思います。 ・ 人も分かるし思い出もある。 ・ 外から見た町内の事が見える良い事。 ・ 月1、年1楽しみにしています。 ・ 大変良い事だと思うのでこれからも続けて下さい。 ・ 協力隊はすごくいい事だと思います。 ・ これからも続けて欲しい。 ・ 楽しく読ませていただいています。 ・ 経験者の話を記事にしているのは良いと思っている。 ・ 内容は良いと思うので移住促進に向けて広く県内外へ知らせる。(新幹線・飛行場内などに設置) ・ 年1回の「とんじこんじ」は各家に配布は無理でしょうか？ ・ 右開きであったり左開きであったりなので、どっちかにしたらどうだ？閉じておくのに不便です。 ・ 町に生まれ育った人は関心がないと思われる。 ・ 月刊と雑誌だったんだね。違いに気づかなかった。 ・ あまり関心がない。 ・ 文書中の言葉遣いがおかしいところがある。 ・ 日本語で書いて欲しい。

6. まちづくりや人口増加に関する取り組みに対するご意見やご感想

20代～30代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て環境をより良くして欲しい。病児保育など。北秋田市のコムコムのような施設があると良い。センターは古くて若い人は使わない。 ・ 病児保育施設が欲しい。最短でも社保病院しかないのは共働きには負担です。35歳以上 40歳未満の実務経験者職員採用試験を実施して欲しい。特に英語力人材確保や ALT 受け入れ通訳業務への職員採用など検討願いたい！ ・ 若い世代関係なく病院が欲しい。 ・ 山下医院で小児科があると良い。 ・ 中学生と小学生が町の商工観光課と協力して藤里を PR するイベントをすればいいと思う。 ・ 若い人向けのイベントなど考えれば良いと思う。 ・ 藤里町で芸能人などを呼び定期的にライブを行う。若者がたくさん来る。 ・ 子供達がスタンプラリーで楽しめるハロウィンイベントがあれば活気が出るかも？能代の方々は「藤里頑張ってるね」と言っていました。私も頑張ってるなと思ってます。 ・ これからは海外に目を向けて町にあるものを評価してくれる外部の人達との交流が大事だと思う。 ・ この町に生まれた時から地域の方々を含めみんなでその子に愛情を注ぎ育てていく。その子がこの町で生まれて良かったと思えるように育てていけばと思う。その為には例えば未成年の子が町外に出て行かなければ体験できない事を町内で体験できるように最大限努力していく。 ・ スマホ版の町のホームページが見にくいです。必要な情報を得られないことがあります。若い世代はとりあえずスマホなので見やすくなると良い。 ・ 若い世代が求めるのは利便性や娯楽、子育て世代は子供の部活の選択肢が増えること。 ・ 冬期間の素波里の活用してみてもどうか？若い世代に意見を取り入れた町づくりが行われて欲しい。 ・ 就職場所があれば良い。 ・ 第三セクターなどでの職種の開発、仕事をつくる事が必要。 ・ 若い世代の多くは高等教育を受けており、藤里には能力を活かせる職場が少ないため人が来ない。働く若者を高く雇い若者をターゲットにした商売を呼び込むことが必要。十分な仕事がある事。同じ年の子が沢山いないとつまらない。 ・ 早期合併を希望します。理想を追うのではなく将来の町民を考えるのであれば他の大きな自治体と合併する方が賢明。 ・ 全ての公務員は全体の奉仕者であることを忘れないで欲しい。暴走した行政、まちづくりは絶対しないで欲しい。 ・ 若い世代本人たちがどう思っているか役場ではアンケートなどで把握していると思うが、本人どうしが共有することがまず大事なのではと感じる（自分は移住
---------	---

	<p>者なので他の方々が共有できていることを分かっていないだけかもしれません)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 町の議員がほとんど若い世代の事など一切考えていないように思う。農業をやっている町民がほとんどと思うが、若い世代ほど町外で仕事をしていることを知って欲しい。選挙の時だけあいさつするが当選したら挨拶すらない。町の事と言っても藤琴地区だけで他の地区のことも考えてもらいたい。
40～50代	<ul style="list-style-type: none"> 外部からの移住者を受け入れないといけない場合だと思うが、藤里生まれの子供達が戻って来て住みたい、今現在住んでいる人達が住み続けたいと思う様にいろんな面での配慮があったほうが良い。若い世代の人達が住みやすいとは思えないので…。働き盛りの年代が本当に住みやすいと感じていないように思う。 若い世代が町の為にやりたいと思っても出来ない事があるなら支援したい。例：子供をみている。残業を減らすために単純作業をシェアワーク。家族でなくてもできる支援。 子供が戻って来たいと話すが親としては臨時採用とかだと不安があり素直に喜べない。子育てするには良い環境。のびのび育てられるし周りにも助けられる。町全体の活気がない。町にもいろんなアイデアを持った人もいると思うので子供も大人も一緒になって考える。アイデア募集する。防災について町全体での訓練があってもいい気がする。 若者をスタッフに入れ、イベント、ライブなど音楽・車・バイクなど中心に組めば他市町村からも注目されるし人が集まると思う。若者の楽しみも増えるのでは？はっきり言って年寄りよりも若者をもてなさなければどんどん町から若者が消えます。 何も無い事が好きな人にはぴったりのまち。車やネットがあれば十分精神的には豊かに暮らせますが若い人達は物質的なものに飢えるとやっていけない気がする。町でも様々な取り組みをしていると思うが人口はどんどん減って残念です。中学校なども部活動が出来ない状況は悲しいものがある。移住者にはお金を上げたらいい。地域コミュニティに入らないと生きづらいけど入りたくない。 空き家調査をきめ細かく行い、居住可能な家を増やすことで景観を保持し、安価に提供することで町外からの利用、世帯数増にもなると思う。 ブナの森マラソンが18歳以上の大会となっていますが、小中高生を対象に出来ないでしょうか？子供が出場すると保護者も同行となるので森のえきやゆとりあなどの施設の利用が増え、利益が得られると思います。 自分が楽しく過ごせてなければ町外の人も魅力を感じないのでは？ 幅広くアイデア募集して賞金を付けるとか。 若い人達が住める環境づくり、働く場所づくり。 「起業支援」に町で取り組むことを期待しています。企業誘致は期待薄なので、少数でも新たなビジネスを立ち上げたい若者を発掘して応援する仕組みが必要。町中心部のにぎわい創出の取り組みを積極的に！ 働く場所を増やしてもらいたい。ただそれだけです！！ 働く場がないと地域は無くなると思います。この問いにあるように若い世代のま

ちへの定着に関する町の取り組みが全く見られません。

- ・ 若い世代が定着する職場の確保が必要です。藤里町だけの取り組みでは限界があるので隣接市町村などとの連携も含めて、通勤圏内の職場を増やす必要があると思う。町民に優しいまちづくりを引き続きよろしくお願いします。
- ・ 給料が安い社会保障がないそんな会社に入ろうと思う人はない。希望もない。議員さんは企業誘致とか少子化対策を何十年も言っているが総括しているか？民間も行政も今一度足元から見直すことが大事だと思う。
- ・ 若い世代のまちへの定着と言っても町に仕事がないのでとても無理だと思います。休みの日も町外へ行く方が楽しいので本当に難しい事だと思う。
- ・ 仕事先があまりないので町内で仕事することが難しい。家の近所も子供や若い人がいないので寂しいが、何も協力できなくて申し訳ないと思っている。
- ・ 企業誘致、特産品開発、観光など雇用できる場を作って欲しい。
- ・ 学生がアルバイトできるような所。
- ・ 外国人も受け入れる具体策が必要。アパートなど居住できる施設を考えておく、介護や農業など外からの労働力が必要になるのは必至。
- ・ 働く場所が無いと若者は町外へ行ってしまおうと思います。
- ・ 定住したくても仕事がないので無理だと思う。
- ・ 高校を終えて地元に残りたくても仕事が無い。また、大学、専門学校を卒業しても戻って来れない。若い人が町に残らないと人口はどんどん減少。せめて二ツ井あたりにでも仕事があれば残れると思う。
- ・ 働く場所の増加。白神ブランドを活かした関係人口の増加。病院、子育て世代への支援。コンビニ。
- ・ 親となり得る若者支援、子育て支援、親世代の支援、出生率向上。
- ・ スキー場にもっと客が集まるようなことを考えてはどうか？子供無料とか。
- ・ 既存の物を大切にしていないように思う。例えば川は全国的にも有名な鮎が釣れる川として知られていたが真剣に対策をしたのか？あるものを大切に守ることを考えて欲しい。新しい物に数々挑戦していたがうまく行ったものはあるか？続いているか？舞茸ぐらい？
- ・ 全て町民で企画運営するイベントを検討するとスタッフに温度差があり盛り上がり欠けるので「会場提供」というようなアピールはできないでしょうか？
- ・ 粕毛のリフォーム住宅等、多くの無駄が見られる（新しく建てたほうが良い）。役場は町内の人を採用しないのか？特に観光に力を入れて欲しい。桜は植えた後の手入れがなっていない。かもや堂も新しくリフォームしたのに次の年には床も壊れている。施工ミスも直さない。
- ・ 情報があまりオープンになっていないのでは？各分野の重鎮たちの意見が優先されているように思われる。情報が入ってきたときはもう物事が決まっていることが多い。今の若い世代は不信感しか得られない。防災無線で町の行事等を放送するのは如何なものかと思う。行事は広報や回覧板などで周知されているので防災無線の意味とは違うと思う。
- ・ 一部で盛り上がっている様な感じを受ける。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何度も同じようなアンケートを書いているがまだ続くのか？そして役に立っているのか良く解らない。アンケート結果を公表しているか？ ・ 具体的な取り組みが見えない。一時的な支援より継続した支援が必要。 ・ 役場の皆さん、協力隊の皆さん藤里の為にこれからもよろしくお願いします。
60代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て世代に住みやすい環境にはなりつつあるのかな…と感じています。住めば都と思われるような町になってもらいたいと思います。 ・ 藤里町に愛着を持つような教育をしてもらい、町外に進学就職しても戻って来ることが可能なまちづくりが必要。高齢者人口が減少傾向になって来ると思いますが、対策は考えているのでしょうか？特養、デイサービス、グループホームが縮小すると雇用の場も失われるので中長期的な視点での対策が必要。 ・ 働く場所がある（企業誘致）。病院がある。生活に便利。地域とのつながりで安心感がある。子育て環境の整備。町に活力がある。 ・ 現代の子供は進学率も高く町への定着といっても仕事が無ければ難しい。町に残った人の結婚も何とかしなければ…。 ・ 難しい事だが地元で働ける場所が無ければ若い人達は当然のように仙台、東京へ流れてしまう。課題はある程度で尽くしていると思うのでアンケートを取らずともこれまで把握しているものを推進していくのみ。 ・ 藤里の豊かな自然を表している物産品がバラバラでまとまりを感じない。連絡協議会とか白神グリーンネット（仮称）とかで大きく、藤里＝白神山地をアピールできれば良い。季節ごとの観光ポイントを組み合わせたりして観光客を呼び込めないか？若い人達の働く場所が限られているので、この町から出ていくのはやむを得ないのかな？今、現在でも人口が減っているのが難しいのかな？ ・ 若者が定着できないのは職場がないからだと思います。地域おこし協力隊が4人いますがそれぞれどんなことを行っているのか？目につきません。町の為になっているのでしょうか？ ・ この町はよそ者を受け付けないところがあると思います。また、人の事をとやかく言う人が沢山います。何をしても迷惑をかけなければ良いと思います。もっと自由に行動したいものです。 ・ 早急に10年後の藤里の具体的な姿を展望して対策を打つべきだ。3年間に設定して運用する。町民の生活基盤をしっかり支えることと基盤を創造するために町営事業体にして町の可能性を広げていってはどうか？子供を育てる環境を充実させることも必要。教育、福祉医療、買い物等々社会基盤を充実させることが必要。そして、町民が幸福感を感じる事が出来る町にすること、商売やスポーツセンターテイメント等活性化すれば町に活気が出る。 ・ 年取ってる人が多く若い人達に譲ることなく頑張っている。良いことですけど…ちょっとね・・・。 ・ 隣近所に若い人や子供がいない。この年代が若い人というのは何とも頼りなく、活気がなくて先行き不安。町外からこの町へ移住してもらえるように、例えば現中学校が廃校になったら、跡地を利用して花木を植えて花畑にし、四季を通じ憩いの場として老若男女、県外からも参加してもらい手作りの楽しめるイベントな

	<p>どやれたらよい。建物も利用して何かに活用できないか？お年寄りが遠くに行かなくても近所でのんびりできたら将来楽しくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若い世代が頑張っている仕事にシルバー人材派遣が食い込んで邪魔をするようなことにならないで欲しいと願っています。 ・ 将来住みよい町にするには若い人達の頑張りが重要ですが、時には年を重ねた人の経験値も加えて取り組んでいかれたら内容が充実するのではないか？ ・ 年配者よりも若い人に聞いてもらいたい。これから生きるのは若者達だ。 ・ 住むにはのどかで良い所だけれど、生活していくのは大変である。毎年雪が降る時になるとうんざりする。年金者には雪に掛けるお金も苦痛になる。若者にここだけ頼みたいと思っても周りにいない。 ・ 婚活をどんどんしたほうが良い。 ・ 仕事不足で生活不安。 ・ ありがたい。その一言に尽きる思いです。
70代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活できる仕事が少ない。 ・ 若い人の安定した職業がないので、その取り組みが必要。 ・ 町内以外の方が働いていますが町内の人を使ったらいいと思う。 ・ 若い人達の仕事場があれば良いと思います。 ・ 町に働く場所が無い。観光では人は集まらない。町主導で産業を考えるべき（畜産、林業） ・ 子や孫たちは町に帰って来たい人もあると思うが、帰って来て生活できるだけの収入を得る職場があれば良いが現状では無理だと思う。 ・ 高校2年生本人と面談して地元に残れる職業を支援したらどうか。 ・ 働く場所の確保が必要。 ・ 若い人達の仕事場が無い事が何より困る事と思います。 ・ 若い人達が町に住みたいと思っても職場が無い為やむを得ず町外へ出てしまうので、とにかく仕事場をつくる事が大切だと思う。 ・ 昔のことだけを掘り起こすだけでなく、若い人達も働けるような会社があったらいいと思う。 ・ より一層の子育て支援と生産性のある職場が欲しい。 ・ 地域にもっと若い人が働ける職場をつくり官民一体で新事業創出に取り組む。 ・ 町が豊かになり暮らしやすい町になれば良いと思う。 ・ 子供を増やす。 ・ 二人目三人目の子供を育てやすくする。 ・ 藤里広報読んでいるが、議員の皆さんの質問が計画されている事業に対するものだけで藤里町の発展のための具体的な質問がない。 ・ 若い世代に魅力あるコンビニ設置の財政支援。若者が定着できる企業の誘致。 ・ 藤里町でしか食べられないものを集めて1年に1回でも宣伝してそのフェアを開催してはどうか？活性化につながればと思う。 ・ 院内岱の再開発が出来ないかと思う。広い大地に飛行機かヘリコプターが駐機できるようにして、空気の良さを利用する工場とかを誘致できないか…？

- ・ 大野岱の放牧をもっと利用して肉牛、綿羊の生産に力を入れて欲しい。白神山地のPRで他から人を呼び、ホテル・素波里などを利用したイベントを開く。
- ・ 昨年、町議会議員が東京方面への研修視察旅行が行われ、新聞紙上で報道がありました。視察した議員は今後の藤里の向かうべき道行や構想などが芽生えたと思います。せっかくの研修ですので参加議員一人一人が町民に対して、視察内容や今後の町政への考えなどを広報誌へ氏名記入のうえ掲載してください。町民は期待しております。
- ・ 町議員数の削減について、人口3千に対して議員10人は多すぎる。
- ・ 防災放送が聞き取りにくいので繰り返し放送して欲しい。
- ・ 若い世代の定着に対する企画をもっと充実することが大切。若い世代が少ないという事は次の世代がもっと大変な町になる。
- ・ 地域おこし協力隊の任期終了後も残っていただけるようにできないか。
- ・ どんな取り組みがあり、結果がどうであったか今後どうするかが解らない
- ・ 若い人が先になって町づくりに取り組むのは大変大事な事です。
- ・ 近年の若者は年寄りにはわからない驚くような良い所があってホットするが、忍耐や仕事に対する甘さは老人が厳しく教えないとね。
- ・ 若い人達も良く町の事を考えると思う！
- ・ 苦勞をしているのは感じているが難しいことと思っている。
- ・ 長く続ければそれなりの成果が出ると思います。職員の積極性を前面に。
- ・ とても良く頑張っていると思います。
- ・ 頑張ってください。
- ・ 高齢者見守りという事で集会所を利用することが多くなりましたが、月に4回から5回以上は多すぎる。多すぎて問題もある。人のうわさ話や悪口を話しているから。お昼ご飯に1品作って持ってきているようで負担になっている人もいる。見守りの日がいつ行われているか声がかからないので、地域みんなに分け隔てなくお知らせして欲しい。地域でも見守りは大切だが行政の方や社協の方が来て軽い運動など体を動かしたり、簡単なモノづくりをしたり、悩み相談にのってもらえるなど月1〜2回にしては？

卷末資料 ～調査票～

藤里町の人口減少やまちづくりに関するアンケートのお願い

町民のみなさま

町では、平成 27 年度に「藤里町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少問題を解決し、藤里町の特徴を生かした活力あるまちづくりや、暮らしやすく、子育てしやすいまちづくりの実現に取り組んでいます。

計画の一層の推進を実現するために、取り組みの効果や評価を把握するためにアンケート調査を実施します。趣旨をご理解いただき、同封のアンケート調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成 30 年 3 月

藤里町長 佐々木 文明

記

【調査目的】 よりよい藤里町のまちづくりを実現するための「人口ビジョン及び総合戦略」の指標に基づく効果調査を行い、計画の推進を目指す。

【対象者】 藤里町に在住する町民 500 人（無作為抽出）

【回収日・回収方法】 3 月 19 日（月）までに返信用封筒に入れてポストに投函ください。

【調査に関する問い合わせ】 藤里町 総務課 企画財政係
〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字藤琴 8 番地
TEL : 0185-79-2111

以上

藤里町の人口減少やまちづくりに関するアンケートのお願い

取り組みの効果等を把握するための経年調査です

1. あなたご自身について

質問1 年齢や性別などについて、当てはまるものに○をつけてください。

年 齢	①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代前半 ⑦60代後半 ⑧70代 ⑨80代以上
性 別	①男性 ②女性
現在のご職業	①会社員 ②公務員・団体職員 ③自営業 ④パート・アルバイト ⑤主婦 ⑥学生 ⑦無職 ⑧その他 ()
結婚の経験	①結婚している・結婚の経験がある ②結婚していない・結婚の経験はない
現在の同居人数	(ご自身を含めて) 人
現在の同居世帯の構成	①単身世帯 (ひとり暮らし) ②1世代世帯 (夫婦のみ) ③2世代世帯 (親と子) ④3世代世帯 (祖父母と親と子) ⑤その他 ()

2. 藤里町への愛着について

質問2 あなたは、これからも藤里町に住み続けたいと思いますか?あてはまるものをひとつだけ選んでください。

- | |
|-----------------------------------|
| ①このままこの町に住み続けたいと思う |
| ②進学や就職などで、町外に移りたいと思う |
| ③進学や就職などで、町外に住んでも、いずれは藤里町に戻りたいと思う |
| ④年をとったら、町外に移住したいと思う |
| ⑤年をとっても町内に住みたいが、町外への移住もやむを得ないと思う |
| ⑥その他 () |

質問3 将来、あなたの子どもや知り合いなどに、藤里町に住んでほしいと思いますか?あてはまるものをひとつだけ選んでください。

- | | |
|--------------|-----------------|
| ①住んでもらいたいと思う | ②町外に住んでもらいたいと思う |
| ③どちらともいえない | ④その他 () |

質問4 あなたは藤里町に愛着を感じますか？ひとつだけ選んでください。

- ①強く感じる ②まあまあ感じる ③あまり感じない ④全く感じない ⑤分からない

3. まちづくりの現状の評価について

質問5 普段のおでかけ環境について、現在の藤里町の外出のしやすさに満足していますか？ひとつだけ選んでください。

- | | | |
|-------------|---|-----------|
| ①満足している | } | 理由: _____ |
| ②やや満足している | | |
| ③あまり満足していない | } | 理由: _____ |
| ④満足していない | | |
| ⑤どちらともいえない | → | 理由: _____ |

質問6 普段の生活の中で、人手不足を感じることはありますか？あてはまるものに○をつけてください。

- ①強く感じる ②まあまあ感じる ③あまり感じない ④全く感じない ⑤分からない

質問7 「①強く感じる、②まあまあ感じる」と回答した方にお聞きします。どの分野で人手不足を感じますか？ 特にあてはまるものを3つまで選んでください。

- ①地域（集落）の役員や行事を担ってくれる人 ②冠婚葬祭を手伝ってくれる人
③草刈りなどの地域の共同作業 ④農作業をやってくれる人
⑤子どものお守りや見守りをする人 ⑥学校の保護者役員や行事を担ってくれる人
⑦高齢者の見守りや日常生活を支援する人 ⑧災害時に対応してくれる人
⑨何か困った時に、声をかけたら手伝ってくれる人 ⑩冬期間の除雪を手伝ってくれる人
⑪その他（ _____ ）

質問8-1 人手が不足している分野に、外部からの担い手を受け入れることや、移住者の受け入れについてどう思いますか。

- ①積極的に受け入れたほうが良いと思う。
②積極的ではないが、やむを得ないと思う。
③外部からの受け入れは必要ないと思う。
④その他（ _____ ）

質問8-2 また、外部人材や移住者などを受け入れる際に必要なことはなんだと思いますか。あなたのお考えを教えてください。

4. 情報の発信について

質問 9 普段、町のお知らせ・情報はどこから入手していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

- | | | | |
|--------|-------|------------|------------|
| ①町の広報 | ②回覧板 | ③町のホームページ | ④町のフェイスブック |
| ⑤人づて | ⑥防災無線 | ⑦特に入手していない | |
| ⑧その他 (| |) | |

質問 10 地域おこし協力隊員が毎月発行している「とじこじ」を知っていますか。また、1年に1回発行の雑誌「とんじこんじ」は知っていますか。

*町のひと・もの・ことを発信し、足元にあるものの豊かさ・町の暮らしの豊かさを見つめ直しまちへの誇り・愛着を醸成しようという取組のひとつです。

- | |
|------------------|
| ①知っているし、読んだことがある |
| ②読んだことはないが知っている |
| ③知らない |
| ④その他 (|

また、「月刊とじこじ」、「雑誌とんじこんじ」について、ご意見や感想などがありましたらご記入ください。

--

質問 11 藤里町のまちづくりや若い世代の町への定着などに関する取り組みなどについて、ご意見やご感想をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。返信用封筒に入れて、ポストに投函してください。